

実生苗



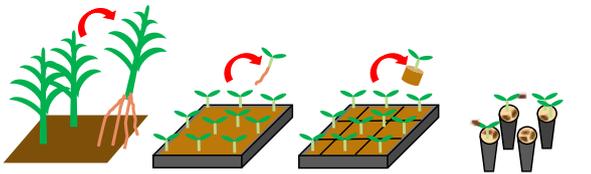
ポイント

稚苗の生産様式が多様化

生産様式

	1年生 幼苗	育苗箱 毛苗	多粒 直播き	セルトレイ 毛苗
スギ	63%	16%	10%	11%
ヒノキ	78%	11%	5%	6%
カラマツ	64%	16%	16%	4%

注)「1年生幼苗」は苗床で1年程度育苗したコンテナ移植用の苗を、「育苗箱毛苗」は育苗箱に播種され発芽直後もしくはそれと同等のサイズのコンテナ移植用の苗を、「多粒直播き」はコンテナに多数個の種子を直接播種したものを、「セルトレイ毛苗」はセルトレイに播種され発芽直後もしくはそれと同等のサイズのコンテナ移植用の苗を意味します。複数回答可。



1年生幼苗 育苗箱 セルトレイ 多粒直播き

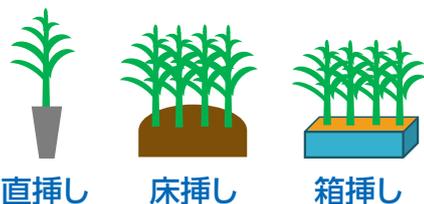
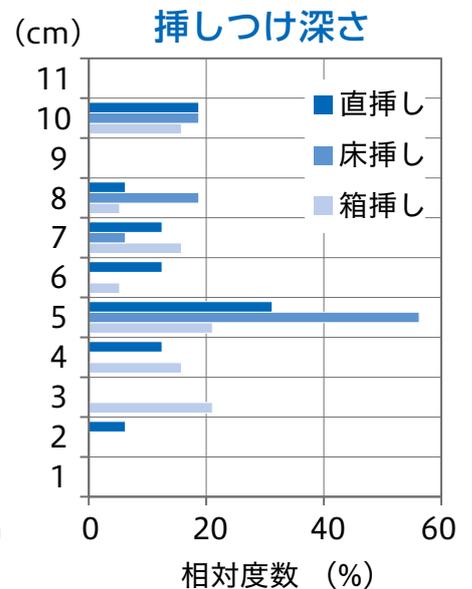
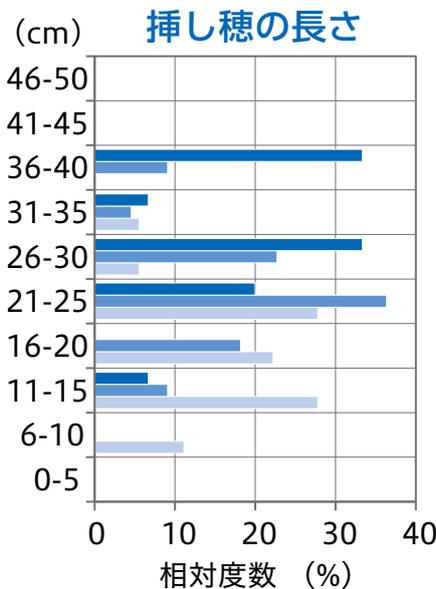
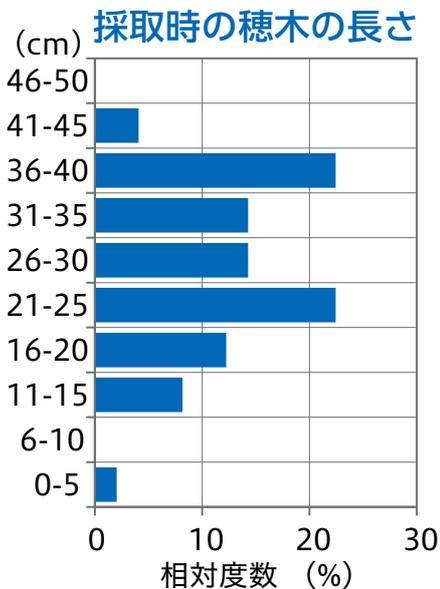
1年生幼苗の生産様式はコンテナ苗普及初期のマニュアルで紹介されていましたが、現在では施設栽培を活かした短期的・効率的な生産様式が3~4割を占めました。

挿し木苗



ポイント

挿し方によって挿し穂の長さは異なる



挿し穂の長さは、直挿しで長く、箱挿しで短い傾向にありました。

挿し穂を挿す深さは、5cmとする生産者が最も多い結果となりました。

注) 相対度数：有効回答総数に対する各階級の件数の割合。

挿し木苗



ポイント

挿し穂を挿す時期に応じて挿し方を変える

挿し穂の挿しつけ時期

	春	秋
スギ	52%	48%
クリーンラーチ	100%	0%
カラマツ	100%	0%

秋挿しは中国2県と九州7県で実施されていました。

スギでは、挿し穂の差し付け時期が春と秋でおよそ半々でした。

複数回答可。

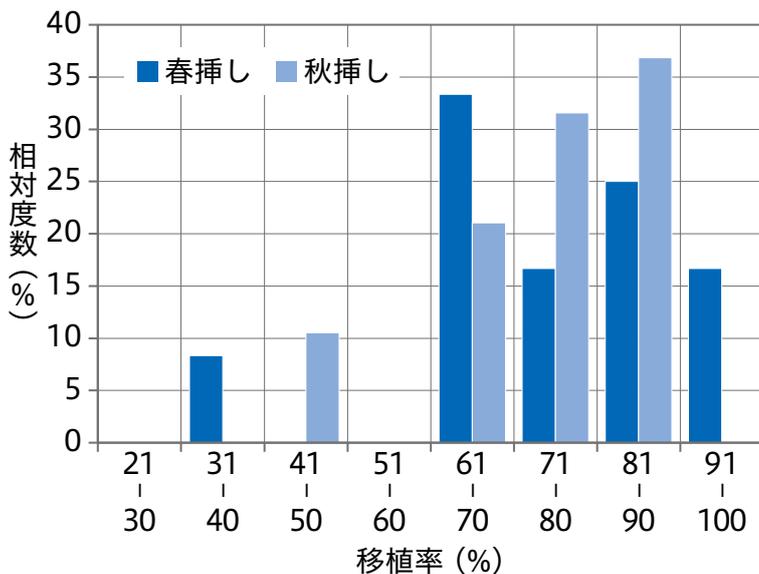
挿し穂の挿し方

	春挿し				秋挿し			
	直挿し	箱挿し	床挿し		直挿し	箱挿し	床挿し	
			露地	密閉			露地	密閉
スギ	50%	27%	23%	0%	19%	42%	13%	26%
クリーンラーチ	25%	75%	0%	0%	—	—	—	—
カラマツ	100%	0%	0%	0%	—	—	—	—

複数回答可。“—”は回答なし。

秋挿しでは、箱挿しや密閉挿しが多く、地域の気候や施設栽培を活かして冬季に発根させ、育苗期間の短縮化が図られていました。

スギにおける挿し穂のコンテナへの移植率の頻度分布



挿し穂のコンテナへの移植率は、春挿しでは61～70%とした生産者が最も多く、秋挿しでは81～90%とした生産者が多い結果となりました。

春挿し、秋挿しともに定植できなかった挿し穂が一定数あることから、挿し穂(母樹)不足の問題(17ページ参照)を解決する上で、この移植率をより高めることは有効であると考えられます。

注) ここでの移植率とは、定植前の挿し穂からコンテナに定植(移植)できた割合を指し、生産者からパーセンテージで回答を得たものです。

注) 相対度数: 有効回答総数に対する各階級の件数の割合。